**伴走型支援シンポジウム（厚生労働省委託事業）**

**伴走型支援って何だ！**

**―孤立時代におけるつながりの支援を考える**

**参加費無料**

**【プログラム】**

**第一部　基調提言**

**定員120**名

（要申込）

**（１）なぜ、伴走型支援が必要なのか**

稲月 正 氏（北九州市立大学基盤教育センター教授）

**（２）地域共生社会と伴走型支援**

吉田 昌司 氏（厚生労働省 社会援護局 生活困窮者自立支援室長）

**（３）伴走型支援とは何か**

奥田 知志　氏（ＮＰＯ法人ホームレス支援全国ネットワーク理事長）

**（４）伴走型支援の位置づけ**

原田 正樹 氏（日本福祉大学副学長）

**（５）事例報告**

高橋 尚子 氏（京都自立就労サポートセンター主任自立就労支援員）

加藤 恵 氏（半田市障がい者相談支援センター長）

**第二部　シンポジウム**

**「伴走型支援の可能性」**

コーディネーター　藤森 克彦 氏（日本福祉大学教授）、他多数

**第三部　これからの普及について・推進協会の働きについて**

**【日時】　2020年1月13日（月･祝）　13:00～17:00　（開場12:00）**

**【会場】　日本福祉大学 名古屋キャンパス　北館８階**

愛知県名古屋市中区千代田５－２２－３５

　近隣の有料駐車場は混雑することが多いため、

できるだけ公共交通機関をご利用ください。

　なお、キャンパス内は

全面禁煙です。

**【お申込み方法】**

事前に、裏面の受講申込書の内容をＦＡＸなどでお知らせください。

**【主催】　ＮＰＯ法人ホームレス支援全国ネットワーク**

**【後援】　日本福祉大学**

ごあいさつ

　皆さん、伴走型支援をご存知ですか。これまでは「課題解決型」の支援が中心でした。何か困りごとを抱えた相談者と面談し、アセスメントを経て課題解決のためのプランを作成し実行する。これが「課題解決型」の支援です。これは今後も重要で困りごとを放置することはできません。

　しかし、実際にはなかなか思い通りに解決しない、専門家が「この人の主訴は・・・」と分析しても課題や困りごとが複雑で本人も整理がつかない、さらに、「孤立」や「孤独」がその人の困難のベースにある、など、「課題解決型」ではうまくいかないケースも少なくありません。また、「解決」という結果を過剰に求められる中で支援員がバーンアウトすることも珍しくありませんでした。

　そこで、登場したのが「伴走型支援」です。これは従来の「課題解決型」とは違い「つながること」あるいは「つなげること」を目的とした支援です。課題解決のための手段として「伴走する」のではなく、「伴走」が目的となる支援です。国際調査で日本の孤立率は15％を超えており米国の5倍となっています。孤立の時代における新しい支援論である「伴走型支援」について一緒に学びませんか。

　この度厚生労働省は、これからの「地域共生社会」において「支援の両輪」として「課題解決型支援と伴走型支援」を位置付けました（2019年12月地域共生社会推進検討会 最終とりまとめ）。伴走型支援については、2010年以後、厚労省の社会福祉推進事業等を活用しＮＰＯ法人ホームレス支援全国ネットワークが研究を重ね「伴走型支援士養成講座」が実施されてきました。すでに1000人以上の認定資格者がいます。今回の、

上記の国の方針を受けて「一般社団法人　日本伴走型支援推進協会（仮称）」を発足することとなりました。シンポジウムの中でそのことも報告したいと思います。

　今回のシンポジウムは、厚生労働省の委託事業「伴走型支援推進に関する検討会等開催業務の請負契約」によって行われます。また、実施においては日本福祉大学の協力を得ることが出来ました。

　皆様のご参加をお待ちしています。

ＮＰＯ法人ホームレス支援全国ネットワーク理事長　奥田 知志

**【伴走型支援シンポジウム受講申込書】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| おふりがな |  | 参加人数 | 名　 |
| お名前 |  |
| ご所属 |  |
| 電話番号 |  | ＦＡＸ番号 |  |

　事前に、受講申込書の内容をＦＡＸなどでお知らせください。

**【お問い合わせ・お申し込み先】**

**ＮＰＯ法人ホームレス支援全国ネットワーク**

**〒805-0015　福岡県北九州市八幡東区荒生田２－１－３２**

**TEL/FAX ０９３－６５３－０７７９**